

総理大臣杯争奪「第46回西日本実業柔道団体対抗大会」 対戦記録と戦評

男子第一部

7連覇中の旭化成Aチームに他チームがどう挑むか。この興味は、今年の全日本選手権出場者を4名並べた旭化成Aの圧倒的なパワーによって、もろくも雲散。同チームの8連覇、24回目の優勝を、なすすべもなく許した。

準優勝の新日本製鐵は決勝戦に駒を進めるも、奮戦及ばず、旭化成の重量陣の前に一敗地に塗れた。ただ、エース高橋が一矢を報い、見事な内股一本勝でひとり気を吐いた。

尚、緒戦で敗れた4チームの内、抽選の結果、第二部転落は総合警備保障と旭化成Bの2チームとなった。

【第1回戦】

旭化成 A 5 - 0 O J J A

(先鋒)	高橋宏明	4段	○	内股すかし	谷本竜孝	3段
(次鋒)	木村 純	2段	○	払腰	嶺 直樹	3段
(中堅)	阿部誠	4段	●	優勢勝	永田尚道	4段
(副将)	松山 毅	4段	○	送足払	桂 剛	5段
(大将)	大鋸 新	5段	○	上四方固	小串善弘	4段

東レ滋賀 2 - 九州電力
代表戦

(先鋒)	磯 恵司	2段		反則	○	嶺 直樹	3段
(次鋒)	岡田建彦	3段		反則	○	森 俊介	3段
(中堅)	高橋宏明	4段		引分		前田貴志	4段
(副将)	松山 毅	4段	○	横四方固		南 陽大	3段
(大将)	木村 純	2段	○	合せ技		尾本裕也	3段
(代表)	岡田建彦	3段		総合勝	○	嶺 直樹	3段

ダイコロ 3 - 0 総合警備保障

(先鋒)	合田良太	2段	○	反則	中野力哉	3段
(次鋒)	川口哲志	3段	☉	優勢勝	村上宜顕	3段
(中堅)	大野義啓	3段		引分	大河内慎一	3段
(副将)	大金良二	4段	○	合せ技	田籠隆博	2段
(大将)	堀内 真	4段		引分	向井基広	3段

新日本製鐵 4 - 1 旭化成 B

(先鋒)	高橋徳三	4段	○	払腰	石橋剛士	3段
(次鋒)	佐藤勇作	3段	○	内股	平野敬一	3段
(中堅)	永井亮平	4段	☉	優勢勝	家泉 崇	3段
(副将)	郷 辰巳	3段		優勢勝 ☉	谷口 徹	3段
(大将)	森田祥一	3段	○	大外刈	相原 大樹	4段

【準決勝戦第1試合】

旭化成 A 5 - 0 九州電力

(先鋒)	塘内将彦	4段	☉	優勢勝	前田貴志	4段
(次鋒)	大鋸 新	5段	○	横四方固	嶺 直樹	3段
(中堅)	高橋宏明	4段	○	内股	森 俊介	3段
(副将)	松山 毅	4段	○	小外掛	尾本裕也	4段
(大将)	木村 純	2段	○	合せ技	南 陽大	3段

先鋒戦。共に技の出ない両者に1分47秒、指導1。その後、攻めに転じた塘内が2分13秒に小内刈で有効を奪う。そして終了5秒前に、今度は塘内が内股で技あり。旭化成 A 先制。

次鋒戦。大型選手同士の対戦も、大鋸が終始先手を取って攻める。36秒、

横捨身で有効。続く 1 分 1 0 秒には、大内刈有効を奪い、そのまま押え込み一本。

中堅戦。1 分 3 4 秒に森に場外注意で指導 1 の後の 1 分 5 6 秒、大鋸十分組み止め、満を持して放った内股は見事に決まり、一本。旭化成 A 早々に決勝戦進出を確定。

副将戦。巨漢松山、5 0 秒に小外掛から体を捨てると、尾本はもんどりうって畳に沈む。一本。

大将戦。4 0 秒に場外注意を取られた木村であったが、終盤畳み掛けるような攻撃を見せ、3 分 2 2 秒小外掛で効果、3 分 4 0 秒内股技あり。終了 4 分前には、またも小外掛で技あり。合せ技一本で、旭化成 A 全勝で決勝戦進出。

【準決勝戦第 2 試合】

ダイコロ		2	-	新日本製鐵	
(先鋒)	佐々田裕良	3 段	内股	○	高橋徳三 4 段
(次鋒)	合田良太	2 段	引分		二村 学 4 段
(中堅)	堀内 真	4 段	○	小外掛	佐藤勇作 3 段
(副将)	大金良二	4 段	⊕	優勢勝	永井亮平 4 段
(大将)	大野義啓	3 段	優勢勝	⊖	森田祥一 3 段

先鋒戦。高橋は佐々田を攻めて、1 分 2 9 秒に得意の内股で佐々田の巨体を宙に舞わせる。見事な一本。

次鋒戦。合田は 2 分 4 6 秒に大内刈、効果で先制するも、二村はこれを取り戻し、結果引分ける。

中堅戦。両者は 4 9 秒に指導 1、1 分 1 9 秒に指導 2 と攻撃の乏しい前半の試合であったが、中盤の 2 分 1 9 秒、堀内は佐藤の大内刈を小外掛で応じ、長身の佐藤を根こそぎ倒す豪快な一本。ダイコロがタイに並ぶ。

副将戦。大金が攻勢に試合を進め、3分に永井から指導1を奪う。ダイコロ逆転。

大将戦。2分2秒に森田に指導1、2分30秒両者にそれぞれ指導1、指導2が与えられる。ダイコロの勝利の色濃く時は流れ、そのまま時間かと思われた2分36秒、何とか隘路を開かんと、森田渾身の大外刈に刈り込めば、大野は横倒しに倒れ、逆転の技ありとなる。その後、3分9秒には疲れた大野に駄目押しの指導2が与えられ、ダイコロ万事休す。新日本製鐵接戦を制し、決勝戦進出。

【決勝戦】

永年、実業柔道界の好個のライバルとして鎬を削ってきた両雄の対戦。昨年の全日本実業柔道団体対抗大会決勝戦の再現となった。

旭化成 A 4 - 1 新日本製鐵

(先鋒)	塘内将彦	4段	●	優勢勝	二村 学	4段
(次鋒)	大鋸 新	5段	○	大外刈	郷 辰巳	3段
(中堅)	高橋宏明	4段	○	大外刈	森田祥一	3段
(副将)	松山 毅	4段	●	優勢勝	佐藤勇作	3段
(大将)	木村 純	2段		内股	○ 高橋徳三	4段

先鋒戦。中量級同士の両者、盛んに動く。組み際に手数が多い塘内は足技を繰り出すが決め技にならず。残り40秒、動きの止まった二村に指導1が与えられる。その後、互いの組み手十分にならないまま時間。旭化成まず1勝。

次鋒戦。喧嘩組み手の両者だが、大鋸は右奥襟を取って、十分な姿勢を保持し、試合の主導権を握る。その状態で迎えた中盤の2分16秒、大鋸が十分に組み止めた態勢から、相手が下がるところ、場外手前で相手の右足を鋭く刈込むと、郷は折れるように畳に沈む。

中堅戦。巨漢同士の対戦。高橋は森田を攻めあぐね、いつものような相手を支配する戦いぶりが影を潜める。1分に、高橋が無造作に小内刈を仕掛けると、

森田が燕返気味に高橋の刈足を払う。高橋たまらず横転し「効果」が宣せられる。その後、高橋はより慎重になるが、対する森田も手数が減る。そうして迎えた1分49秒、森田が片襟から払腰を仕掛け、戻る瞬間、高橋が機敏に反応し、これも片襟で森田を担ぐような姿勢で左足を飛ばし、捻りながら相手左足を刈れば、森田は畳に背を激しく打ち据えられる。旭化成先鋒戦から3連勝で、早々と優勝を決める。

副将戦。これまた超重量級同士の対戦。開始早々、佐藤の大外刈を松山、得意の裏投で切返し、「効果」で先制する。その後、単調な攻防のあと、疲れの見た佐藤に残り48秒、指導1が与えられ、そのままブザー。

大将戦。 左右の喧嘩組み手で、組み手十分になれない高橋は、開始13秒、片襟のまま木村を内股で跳ね上げると、木村は横転し「効果」。その後も高橋は、防戦の木村から1分45秒、大内刈で「効果」を奪うなど、ケレン味のない柔道で木村を圧倒。対する木村は、中盤に反撃に転じ、強力な払巻込で攻めれば、高橋かろうじて身进行をかわす。こうした攻防の後、高橋が2分58秒、引手を十分に握り、片襟から大きく飛び込んで内股に跳ね上げると、木村大きく宙を舞い、前方に背中から落下。高橋は棟田を屠った得意の内股で旭化成に一矢を報いる。

旭化成が危なげなく本年も男子第一部を制覇した。銅金杯受賞の高橋以外に、大鋸も全試合一本勝。塘内、松山の全日本選手権組も全勝と圧倒的な存在感を示した。対する新日本製鐵は、高橋が絶好調で、観客を魅了する華麗な一本勝の山を築くも、猶、力及ばず10年ぶりの優勝を逃した。